

2024 年度 第4回 南の星小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 2025 年2月 10 日(月) 14 時 30 分～16 時まで
- 2 開催場所 南の星小学校 会議室
- 3 主席委員 小林睦夫、小林 翼、井口裕士、佐藤政美、大石わかな、
HASHIMOTO IZABELA
- 4 欠席委員 鈴木美佐男、佐藤友美、鈴木アリネ、BAMBANG HARIANTO
- 5 オブザーバー 中村優作(五島協働センター所長)
- 6 学校 竹村元清(校長)、古橋水無(教頭)、川本仁美(CS 担当教職員)、
井上美和(CS ディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS ディレクター 井上美和
- 9 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、小林委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
 - (1) 学校関係者評価について
 - (2) 来年度の学校運営の基本方針の説明
 - (3) 学校運営協議会の自己評価について
 - (4) その他 夢育やらまいか CS 加算分の報告
- 11 会議記録
司会から、委員総数10人のうち6人の出席があり過半数に達している為、会議が成立している旨の報告があった。

(1)学校関係者評価について
議長の指示により、教頭から南の星小学校向上プランにおける学校関係者評価について、別紙の資料に基づき説明があった。

委員から以下の意見があった。
 - ・資料にある「素直な子」の改善策に、「かがやき賞を同じ児童が連続してもらえないように配慮する」とあるが、これは何のための配慮なのか？皆均等に賞がとれるよう配慮することだと思うが、連続してとれる子がいてもいいのではないかと（小林委員）
 - ・クラス数も減って単級になってしまっている現状もあり、実際は同じ子が連続してもらっている場合もある。いろんな子がもらえるといいなというところの配慮と捉えても

らえるといふ。(教頭)

- ・来年度に向けて、この学校は評価と改善策は表面上変わっていない。何かもうちょっと違う手立てがあつていいのかなと思う。一般的なことは書いてあつても特化して何するの？というような具体的なことが今後提示されていくといふ。子供たちに満足できる材料を増やしていくことは、とても大事なことはないかと思う。(井口委員)
- ・個別指導支援といつても、どういう個別指導をしたらどういふことができるようになるか、具体的に何ができてほしいのかをちゃんとしないと、個別指導はできない。例えば、テストの全ての分野で8割とるのは大変なこと。ならば目標達成に可能性がある計算の分野で9割取れることを目標にして取り組めばみんなが満足できる結果につながる。こういう目標を一つ作つた方が、この学校の子供たちにとってはこれだけ是可以という自信につながつて、いいのかなと思う。(井口委員)
- ・確かに、計算に特化して取り組むことは、子供が満足するくらいのレベルに到達することができると思う。また、具体的に何が出来るか話し合つていきたい。(校長)

(2) 来年度の学校運営の基本方針の説明

議長の指示により、校長から学校教育目標と重点目標について、資料に基づき説明があつた。

協議の結果、これを承認した。

(3) 学校運営協議会の自己評価について

議長の指示により、原川会長から学校運営協議会の自己評価について、資料に基づき説明があつた。

協議の結果、これを承認した。

(4) その他

- ・夢育やらまいか CS 加算分の報告
教頭より、夢育やらまいか事業の CS 加算分の用途等について報告があつた。

委員から、年間を通じて以下の意見があつた。

- ・学校の先生自身が自分達で何が出来るかもつと考えて欲しいと、元教員として思う。なんでもかんでも外注(地域など)にお願いするという発想は、私は教員としてはマイナスだと思う。教員がやれることがもつとあるように思う。自分のできないことがあつたら、それを自分で身に着けようとする努力が、今まで以上に教員に必要なので

はないかと思う。(井口委員)

- ・学校側でも、何が自分たちできて何ができないかを整理して、CS の中でや地域の中で行っていくことを発想していかないと、やたらと地域などに頼ってしまうというのも怖いものがあるなと感じている。(井口委員)
- ・この学校で、私も子供も満足している。今度も、こちらからも何か出来ればと思っている。(ハシモト委員)
- ・ここでの活動が、学校や子供たちのためになっているなと実感するが、一方でこの活動がどこまで保護者や学校の先生たちに伝わっているのか、不安な気持ちになることがある。前回の協議会で各学年の先生方と CS 委員との話し合いが持てたが、もっと交流する機会が持てたらいいと思う。(大石委員)
- ・さくら連絡網もうまく活用しながら、来年度はより多くの保護者に発信していければよい。(小林委員)
- ・CS だよりは、今までは印刷して各家庭に配布しているが、今後はさくら連絡網や学校のホームページ等にも掲載していくことで、もっと発信の幅を広げていく必要があると感じている。(教頭)
- ・特別支援学級の子たちとの交流の後、自分の子どもが手話や福祉に興味を持ち始めた。今度も交流は続けていくといいと思う。(佐藤政美委員)
- ・CS の活動については、まだ保護者に伝わっていない印象が強い。さくら連絡網などでも発信することはいいと思う。(佐藤政美委員)
- ・職員の中でも CS の会議についての理解も薄いのではないかな。学校の中でも活動内容を周知してもらえたらと思う。(小林委員)
- ・会議だけではなく今回持久走大会のボランティアにも参加させていただき、肌で学校に触れられたのはよかった。実際に児童のみんなの頑張る姿に触れられたというのはいい経験をさせてもらえたと思う。今後こういうお話があれば参加していきたい。ここでの話し合いがより多くの保護者の方にも共有されていけばよいと思う。(オブザーバー 中村様)
- ・CS の活動は、地域と保護者がつながる貴重な場となっていると思う。今後は発信の幅をより広げていけるといいと思う。入学式など保護者の集まる場所で、CS の活動について話すのもいいと思う。(原川委員)

※その他の連絡事項

- ・令和7年度第1回学校運営協議会予告
司会より、令和7年5月12日(月)14:30~16:00、南の星小学校会議室で開催する旨の報告があった。